

令和3年度第14回士別市教育委員会会議録

1. 日 時 令和4年2月18日（金）午後1時30分～午後3時08分
2. 会 場 教育委員会 会議室
3. 出席者 教育長 中 峰 寿 彰 生涯学習部長 三 上 正 洋
職務代理者 馬 場 千 晶 学校教育課長 須 藤 友 章
委 員 加 藤 洋 之 合宿の里スポーツ推進課長
委 員 山 田 敦 久 坂 本 英 樹
委 員 多 田 千 鶴 社会教育課長 武 山 鉄 也

4. 議 件（発言者、議事要旨及び議決事項）

○中峰教育長あいさつ

前回の会議から一か月半ほど経過したが、年明けから気候も穏やかである。

新型コロナウイルスについては、変異しオミクロン株に置きかわったとの報道があるなか、市内でも感染が急拡大しており、先週は3人だった陽性者数が、今週は36人になった。名寄市では2週続けて47人が陽性となったほか、病院ではクラスターも発生している。富良野市でも先週は49人だった陽性者数が93人になっており、他市と比較すると本市の状況は抑えめであるといえる。1月27日から2月9日までの間に、本市小中学校の児童・生徒と教職員で陽性が確認された人数は23人であり、士別中と多寄小では臨時休業、南小と南中では学級閉鎖の措置をとった。未就学児や高校生などのきょうだい、家族を含めると更に人数が増える。しかし、陽性者数を公表しているのは学校関係などに限られており、学校だけで感染が広がっているような印象を受ける。学校内で確認されている陽性者との接触がないにもかかわらず感染している例もあり、複数のルートから感染が広がっているようだ。家族が陽性になり、子どもは元気だが他の家族が次々と時間差感染している例もある。オミクロン株は一般的には軽症で済むと言われているが、発熱や喉の痛みなどの症状があり、感染力も数倍高いようである。国のまん延防止等重点措置期間も2週間延長され3月6日までとなった。各種行事の日程についても調整していたが、延長に伴い再検討する必要がある。社会教育事業などは、感染拡大防止策を講じたうえで実施する考えである。

学校職員の人事協議についてはヤマ場を迎えており、3月4日には内示を行う予定である。今年度末の退職者は、校長2人を含む合計9人であり、管理職の人事はおおむね決定した。加配については、まだ決定していないが、士別中の統廃合加配や士別小の体育専科教員は今年度限りとなる予定である。

本日もよろしく願います。

1 議事について

○中峰教育長 進行

「議案第30号「令和4年度教育行政執行方針」について、説明を求める。

○三上部長

執行方針は昨年同様に、学校教育、社会教育、スポーツの振興、文化・芸術の振興、教育・学習環境

の整備の5項目について基本方針を定めている。

○中峰教育長

「むすび」の部分も含めて、私個人としての考えではなく、教育委員会としての考えを述べさせていただいた。詳細部分を含めての内容については事後的な確認となるが、基本的にはこの間協議してきた方針に基づくものであり、ご了解頂きたい。何かあれば発言願う。

○山田委員

朝日中学校の未耐震対応について記載されている内容で問題ないと思う。

○中峰教育長

朝日中学校のあり方について、糸魚小PTAを含め協議を行ってきた。PTAからは学校の存続を強く望む意向でもあり、生徒数の減少の中でのひとつのあり方として、義務教育学校への移行を検討しているところである。義務教育学校は、その名のとおり義務教育の9年間を一連の形で履修するものであり、現在、道内に14校がある。そのほとんどは、前期6年間、後期3年間の区切りを採用している。来年度は比布町と富良野市においても新たな義務教育学校が開校するほか、福島県川内村では今年度から村内の学校を義務教育学校に移行したところである。今後、朝日地区の未就学児の保護者やコミュニティ・スクールとも協議を進めていく。

また、本市の特認校制度は、中士別小と温根別中を指定しスタートしたが、学校の統廃合を経て、現在は温根別小と上士別中となっている。改めて考えると、現行制度では特認校の小学校を卒業後に引続き小規模の中学校への通学を希望する場合は、また別の地域に慣れなければならない必要がある。なるべく環境を変えることなく、同一地域で学び続ける機会を設けるべきとの考えから、周辺地区で小学校と中学校が揃っている上士別地区と朝日地区の2地区において、特認校を指定するものであり、本日の会議で決定したいと考えている。

○加藤委員

執行方針としては概ね良いと思う。ICTの有効活用について記載があるが、学校の通信環境は良くない。オンライン授業を行う場合は、先生が自宅から接続した方が通信環境は良い場合もあるようである。また、オンライン授業の中で、先生の板書がよく見えなかったとの話を聞いた。例えばスクリーンショットとして上げて配付するなど工夫してはどうか。オンライン授業で何をするか、映像が見づらい場合や音声聞き取りにくい場合はどうすればいいかなど、改善を図りながら、子どもたちの学びの機会を充実していけるようにしてもらいたい。

○中峰教育長

1月28日に、士別中学校で実施したオンライン授業の様子を参観してきた。先生たちは思いのほか活用できていると感じた。問題となっている通信環境について改善を図るべく調整を進めているが、現在の半導体不足の影響で、機器が調達できないため、実施できずにいる。今後、光回線の整備が進めば、家庭側の通信環境整備も進むものと期待している。ICT端末は文房具などと同じように、あたりまえの道具として扱うことになっていく。高校でも出された課題を予め家庭において自分で事前学習し、その上で授業を行うという方式に変わろうとしている。上手く端末を活用してもらいたい。

○加藤委員

通信に関してはタイムラグがあるとも聞いている。ラグが出た場合の動きを想定しておくべき。また、他校にも情報共有してもらいたい。

○中峰教育長

子どもたちの理解度が違う場合の対応も課題である。対面の授業に比べて、オンライン授業の場合は、理解できていない状況の子どもへのフォローが難しい。対面とオンラインの良いとこ取りをするハイブリッド型の授業が必要と考えている。学校間の情報共有については、ICTプロジェクトチームを通じて理解拡大を図りたい。

○馬場職務代理者

刃物で人を刺した事件などが報道される度に、本市で同じような事件が起こらないでほしいと思っている。コロナの閉塞感の中、衝動的に起こる可能性もあり、注意していかねばと感じる。

○中峰教育長

いじめ、不登校、虐待などから発生する少年犯罪を防止することは極めて重要である。市内の学校では、いじめが確認されているが、適時適切な対応のもと、一定期間においていずれも解消が図られている。引き続き注意喚起を徹底し、子どもの様子を注意深く確認しながら早目早目に対応していきたい。ある調査では不登校の児童生徒が1割以上存在するともいわれているが、本市では「ウィズ」と在籍校の連携により、こうした課題に対応する体制を構築している。また、虐待が疑われる案件では、こども・子育て応援課や児童相談所等とも情報共有のうえ対応しているところである。

○多田委員

保護者の立場として、英検などの検定料が助成されることは非常に喜ばしい。4年ほど前から市に要望してきたことでもあり、ようやく実現して嬉しく思っている。検定を受けることがきっかけとなり、学力向上につながると期待している。

○中峰教育長

検定の種類や内容によって検定料が違うほか、どの程度受験する児童生徒がいるのかについては不透明な部分もあり、複数回受験する子もいると思われる。そのため、当面、助成は児童生徒1人1回までとし、最大1,000円とする。これまで実際に受験した児童生徒は全体の3割ほどであるが、これをきっかけとして学力の底上げにつながると期待している。他の自治体では、合格した場合のみ助成を受けられるとしている場合もあるが、本市では成功報酬というような形ではなく、子どもたちの学習意欲向上を応援したいと考えている。もし予算が不足した場合は、流用等により対応する考えである。

この件についてはよろしいか。

(全員了承)

○中峰教育長

「議案第31号 令和4年度主要事業と当面の取組」については、私から説明する。

先ほども説明したが、朝日中学校のあり方について、義務教育学校への移行を検討している。本年は「まちづくり総合計画」の見直しを行う年であり、計画年度や経費の算出など計画に反映させるためのリミットが迫っており、現段階では文言のみの整理としている。一方で、上士別中学校においても生徒数の減少に伴い、近い将来に複式となる見込みであり、朝日中学校と同様に学校のあり方について確認する必要がある。保護者の中には、部活動が学校のあり方に関連するとの意見もある。部活動に関しては、市町村を超えた合同チームが編成されている場合もあるほか、令和5年度から休日における活動を地域に移行していくことが必要な状況にもあり、スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ、各競技団体との協議を進める予定である。

○中峰教育長

「議案第32号 令和4年度士別市教育委員会予算」について、説明を求める。

○三上部長

令和4年度士別市教育委員会予算について、別紙資料に基づき主なものを説明する。その後、各担当から詳細について説明する。

○坂本課長

春のクロスカントリー大会は、主催者である道北陸協から事業を終了するとの連絡があった。インターハイのウエイトリフティング競技を開催することに伴い、北海道から職員が2年間派遣される。ハーフマラソン大会はコロナ対策を講じながら開催する予定である。6月には節目となる30回目のオリンピックデーランを開催予定。また、オリンピック教室は9月4日頃で調整中だが、朝日中では9月に学校祭と修学旅行が予定されているところであり、北海道オールオリンピアンズとの協定も踏まえ、実施時期等について検討していく。施設のハード面では、朝日スキー場リフトのブレーキ改修を予定している。部活動改革については、国の有識者会議が今年の夏に提言を出すとの話がある。関係団体との協議も一斉にできないため、各団体の状況を確認したうえで関係部署と連携し進めていきたい。

○武山課長

新規事業はないが、土曜子ども文化村やチャレンジ寺子屋は好評を得ている中で、今後は子ども会活動などとも連携していきたい。また、社会教育関連の事業が複数の所管で混在していることから、分かりやすく整備していきたい。

○中峰教育長

社会教育事業に関しては、そのあり方について3年間ほど模索してきた。事業の数が多ければ良いという訳でもない。職員の働き方改革も意識しながら、事業を精選し、どう提供していくかを考えなければならない。職員数は減となっているが、できるだけ事業を継続していく考えである。子ども会がない自治会もある。文化村に参加することにより、子ども同士の関わりができたり、進学してもつながりが続くなどのメリットがある。参加している子どもの学校に偏りがある点については、多少残念である。今後とも事業の実施にご協力いただきたい。

○須藤課長

朝日中学校のあり方については、議案30号でも説明したが、令和10年度には中学生の人数が一桁になる見込みであり、中学校単独での存続が難しくなる。そのため、義務教育学校の形態に変更し、学校を維持していくとの考えである。なお、義務教育学校に移行する場合は、糸魚小学校の校舎と朝日中学校の2線校舎を改修し使用することを検討しており、耐震性のない中学校の体育館と1線校舎については使用せず、しかるべき時期に解体する必要があると考える。

○馬場職務代理者

保護者等の反応はどうか。

○中峰教育長

PTA 役員段階では、「学校をなくすことは考えられない」との意向が示されており、現時点では「義務教育学校への移行が望ましい」との方向で話がまとまっている。義務教育学校に移行することで、教科の免許を持つ職員が専門に指導を行うことができるようになり、指導の中が広がるメリットもある。一方で小・中の免許を保有している教員の確保に苦慮する可能性もある。小・中学校の保護者全体に対する説明の際にも反対意見は出ていない。逆に「中央地区の中学校に通うことはできないのか」との質問があった。同様の質問は、上士別で特認校制度の説明を行った際にも出されたが、「現状ではそのような対応をする考えはない」旨、回答した。部活動などを理由に中央地区の中学校への通学を認めた場

合、小規模校はさらに生徒数が減少し、教職員の配置にも影響が及ぶこととなってしまふ。部活動は制度の過渡期にあり、道東のある学校では「何でも部活」と称して、絵を描いたり、お茶をするなど様々なことにも取り組んでいる。地域人材である指導者に教えてもらう機会があると良いと考えている。

○多田委員

運動部は合同で活動しているが、文化部も同様に合同で活動することはできないのか。

○中峰教育長

今後は検討していく必要があると思っている。南中の吹奏楽部は30人以上の部員がいたが、現在は10人くらいになっている。部員の数によって編成も変わってくる。以前、土曜子ども文化村で、翔雲高校に協力いただき吹奏楽体験を行った、この経験をきっかけに中学校で吹奏楽部に入部したとの話も聞いている。自分たちだけではできないことも、地域の方に協力いただき実施できる場合がある。

○加藤委員

コロナ禍の影響で文化部も厳しい状況にあるようだ。

○中峰教育長

土別中の吹奏楽部は、打楽器は学校で、管楽器は自宅からリモートで練習するなど工夫している。

○中峰教育長

「議案第33号 令和3年度士別市教育委員会補正予算」について、説明を求める。

○三上部長

維新会からいただいた寄附金を基に学校図書を整備を行うほか、燃料費の高騰を受け小・中学校及び給食センターの電気料金も上昇しており予算に不足を生じる見込みとなったため、第1回定例会初日に補正予算を上程する。また、コロナ交付金関連事業と令和3年度の執行残の減額については定例会最終日に提案することになる。

○中峰教育長

「議案第34号 士別市小規模校（特認校）入学取扱要綱の一部を改正する要綱」について、私から説明する。

前回の会議でも説明したが、本年4月から上士別、朝日の両地区にある小学校と中学校を特認校として指定するものである。両地区のPTAにも了解いただいたことから、本日の会議で決定したい。

（全員了承）

○中峰教育長

「議案第35号 士別市学校教職員住宅条例施行規則の一部を改正する規則」についても、私から説明する。

本市で管理している教職員住宅のうち、朝日地区にある1戸を普通財産として市に移管しようとするものである。これにより、教育委員会において管理している教職員住宅は49戸となる。

この件についてはよろしいか。

（全員了承）

2 その他について

◇卒業式の日程について

小学校・中学校は、周辺校のみ教育委員参列で調整（議会出席のため教育長参列不可）。

東高校は教育長対応。

○須藤課長

すでに新聞等で報道されているが、NEC 社が製造した GIGA スクール向け端末の一部について、衝撃を与えた場合、発煙する恐れがあることが判明した。本市が導入したクロームブックのうち、周辺校で使用している LTE モデルが対象機種であるが、端末に強い衝撃を与えない限り問題なく使用できることから、衝撃を与えないよう注意しながら使用を継続している。先日、NEC の担当者と納入業者が来庁し、今後実施する自主点検等についての説明を受けた。現在のところ 6 月頃に点検を実施する予定とのことだが、可能な限り子どもたちの学習に影響を及ぼさないよう対応を検討していきたい。

◇当面する今後の日程について

三上部長説明

午後 3 時 08 分 会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

| | |
|--------|---------|
| 署名者 | 中 峰 寿 彰 |
| 会議録調整者 | 須 藤 友 章 |